

ミカン生育情報

千葉県

平成 20 年 7 月号

平成 20 年 1～6 月の気象

本年の 1～6 月の平均気温は 11.7℃と平年の 12.3℃より 0.6℃低かった。3月は平均気温が平年を 1.0℃上回ったが、それ以外の月は平均気温が平年と比べ 0.3～1.6℃低かった。降水量は 1～3月は平年より少なく、4～6月は平年より多く、特に6月は 433mm と平年の約 1.8 倍だった。日照時間は、1～6月の合計は 923 時間とほぼ平年（961 時間）並みだった。

表 1 平成 20 年 1～6 月の気象（暖地園芸研究所）

月	半旬	平均気温 °C		降水量 mm		日照時間 hr	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
1		5.1	6.0	44	96	121	169
2		4.7	6.3	67	92	203	151
3		10.1	9.1	144	191	195	154
4		13.6	13.9	274	172	153	166
5		17.2	17.8	272	172	147	186
6	1	17.2	20.0	68	26	16	28
	2	20.4	20.3	20	30	26	25
	3	19.4	20.5	38	44	26	23
	4	20.6	21.3	18	44	22	21
	5	20.3	21.2	206	51	12	19
	6	19.8	22.2	83	38	2	19
平均/合計		19.6	20.9	433	233	104	135

樹の生育（表は次ページ）

本年の温州ミカンの発芽期は、早生温州が 4 月 9 日、普通温州では 4 月 13 日と、平年並み、また、早生温州の開花始めも 5 月 9 日と平年並みだった。しかし、5 月第 2 半旬以降は気温が低くなり、特に 5 月第 3 半旬は、平均気温が平年より 5.5℃も低かったため、開花盛期は、早生温州、普通温州ともに平年より 2 日遅かった。開花始めから開花終わりまでの期間は、早生温州で 12 日間と平年より 2 日長く、普通温州では 9 日間と平年より 1 日短かった。

本年の着花量は、暖地園研ほ場では早生温州でやや少なく、普通温州は平年並みであった。安房地域は、着花量は概ね少なめであった。また、6 月が曇雨天だったため、生理落果も多かった。樹勢は、冬季に際立った低温がなかったことから良好である。病虫害は、川野夏橙でかいよう病がやや目立つが、その他は特に目立たない。

表 2 発芽期および開花期（暖地園芸研究所）

早生温州					
年次	発芽期	開花始期	開花盛期	開花終期	
平成 18 年	4 月 12 日	5 月 16 日	5 月 22 日	5 月 26 日	
19	2	5	11	17	
20	9 (9)	9 (9)	16 (14)	21 (19)	
普通温州					
年次	発芽期	開花始期	開花盛期	開花終期	
平成 18 年	4 月 20 日	5 月 21 日	5 月 26 日	6 月 1 日	
19	14	12	17	22	
20	13 (13)	16 (13)	20 (18)	25 (23)	

() は平年値：平成元年～19 年の 19 年間の平均値

7～8月の栽培管理

摘果 着果量が多い樹では、なるべく早く摘果を行う。早生温州では、内なり、裾なりの果実を全摘果し、樹冠表面の果実を間引き摘果する。普通温州では枝別摘果や樹冠上部摘果とし、着果部位は9月以降に小玉や大玉、傷果を除く程度に軽く摘果する。

着果量が中程度の樹では、早生温州は内なり、裾なりの果実を全摘果し樹冠表面の果実を間引き摘果する。普通温州は内なり、裾なりの果実のみ適果し、9月以降に間引き摘果する。

着果量が少ない樹では、早生温州、普通温州ともに粗摘果は行わず、9月以降に仕上げ摘果を行う。

病害虫の防除

温州ミカン 黒点病は幼果期から成熟期にかけて感染、発病する。薬剤の予防効果は降雨により低下する。8月中～下旬に薬剤散布を行う。

ミカンサビダニは7月から9月まで加害するので、被害果を1～2個でも見かけたら直ちに防除を行う。

中晩生カンキツ類 8月中～下旬は黒点病やかいよう病の防除時期である。かいよう病の病原細菌は雨水によって伝播され、気孔や風ずれなどの傷口から侵入して発病するため、傷口を作らせないための防風対策やミカンハモグリガの防除を行う。台風前の薬剤散布が重要となる。

《 生育情報の問合せ先 》

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹研究室 電話 0470-22-2961
 果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。 <http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/>